

中・高 合同

令和4年度

教育研究員研究報告書

外国語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の内容	2
IV	研究構想図	3
V	検証授業	4
	〈指導事例1：中学校第2学年〉	4
	〈指導事例2：中学校第2学年〉	6
	〈指導事例3：高等学校第2学年〉	9
	〈指導事例4：高等学校第3学年〉	12
VI	研究の成果と課題	14

研究主題

一人1台端末の活用を通して対話的な学びの機会を設定し「書くこと」の力を育成する指導の工夫

I 研究主題設定の理由

高等学校学習指導要領解説外国語編（平成30年7月）（以下、高校解説）の「改訂の趣旨」においては「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」等総合的に育成することをねらいとしているが、指導の現状として「特に『話すこと』及び『書くこと』などの言語活動が適切に行われていないこと、『やり取り』や『即興性』を意識した言語活動が十分ではないこと、読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を統合した言語活動が適切に行われていないことといった課題がある」と述べられている。

中学校学習指導要領解説外国語編・英語編（平成29年7月）（以下、中学校解説）では、生徒の英語力について「習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することなどに課題がある」としている。

また、令和3年度及び4年度の東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査では、英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに、必要な情報を得たり、自分の考えを英語で表現したりする能力を見取る問題である大問2-3(2)の正答率（部分正答含む）が令和3年度は38.3%、令和4年度は44.7%と半数以上の生徒が表現できていないという結果が示された。以上のことより、生徒が自分の考え等を表現する力に課題があることが考えられる。これらのことを踏まえ、各委員の授業実践を振り返ったところ、以下の3点が共通の問題点として挙げられた。

- (1) 「話すこと」や「書くこと」の活動において、自らの考えや気持ちなど、自分のことについて表現させる際、トピックに関する情報を収集させるのに時間がかかってしまう。
- (2) 1単位時間の中では、成果物を発表したり共有したりする時間が取れておらず、交流を通じて思考を広げさせたり協働して問題を解決する活動が十分とはいえない。
- (3) 生徒各々の英語学習における目標設定と目標を達成するための方法や手段について、生徒に見通しをもたせることができていないことがある。

「書くこと」は文字として表現されることにより文法等の正確性が求められる。また、コミュニケーションの目的、場面及び状況に応じて、『論理的』に『まとまりのある文章』を書く力が必要である。これらの力は学習者にとって難度が高い技能である。そのような力を身に付けるためには、既習事項を活用したり、読み手等を意識したりする統合的な言語活動を行う必要があると考えた。

以上のことより、目指す生徒像を「既習事項を活用したり、読み手等を意識したりする統合的な言語活動を行うことにより、自分の考え方や気持ちを『論理的』に『まとまりのある文章』で書くことのできる生徒」とし、研究主題を「一人1台端末の活用を通して対話的な学びの機会を設定し『書くこと』の力を育成する指導の工夫」とした。

II 研究の視点

中学校解説及び高校解説では、生徒は自分の考えを発信することができるようになること

が求められている。また、生徒は発表や議論ができる力を身に付けることが求められている。そこで、これらの目標に対し、「研究主題設定の理由」で述べたとおり、生徒の実態や指導の実態等から、一人1台端末を十分に活用し適切な指導を行うことで「論理的」に「まとまりのある」文章を書くことができるようになり、目指す生徒像に近づくのではないかと考えた。そこで次の3点を解決策と考え研究を進めた。

- (1) 一人1台端末を活用して、情報収集や情報共有をし、英語で読み書きすることで、統合的な言語活動を取り入れる。

学習指導要領において4技能を統合的に活用させる言語活動の充実が求められている。生徒が一人1台端末を活用して読んだり書いたりすることで、より必然的に英語を用いることができ、「書くこと」の力が一層伸びるのではないかと考えた。

- (2) 一人1台端末を活用して、容易に生徒同士で成果物を共有し、相互評価をさせることにより、生徒同士の協働的な学びを実現する。

「読むこと」と「書くこと」を統合した言語活動を行うことで、「論理的」に「まとまりのある文章」を書くことが苦手な生徒も、授業時間内に瞬時に他の生徒の成果物を参考にすることができれば、自己の考えを広げ深めることができると考えた。

- (3) ルーブリックを生徒に明示し、自己評価を通じて自らの学習を調整できるように支援を行う。

ルーブリックをあらかじめ生徒に明示することで、生徒自身が目標に向かって粘り強く活動に取り組むことができると考えた。学習したことを振り返って自身の学びや変容を自覚できる場面の設定を工夫することにより、生徒が自ら学習を調整できるようにした。

Ⅲ 研究の内容

<研究の柱①> 情報収集や情報共有機能を活用しながら、「書く力」を伸ばす統合的な言語活動の工夫

- ・一人1台端末を使うことで、設定したテーマについて効率的に多くの情報を収集し、それを適切に取捨選択させることで、自分の考えを的確に表現できるような活動を工夫する。
- ・一人1台端末の利用を通じて、教員や外国人英語等教育補助員、地域の人、他の生徒等との対話を促進することにより、先達の考えを学び、それを手掛かりに自らの意見を構築する。

<研究の柱②> 成果物の共有や相互評価を活用した生徒同士の協働的な学びの工夫

- ・表計算ソフトやデジタルホワイトボードサービス、授業支援アプリ、思考整理型アプリを活用し、成果物を生徒間で共有する場面を設定する。
- ・成果物について生徒間で意見を出し合ったり、良い点や改善点を見付けさせたりすることで、互いに学び合う対話的な活動を工夫する。
- ・生徒間で各自が収集した情報を共有させたり、意見を出し合ったりして、協力して作業させることで、協働的な学びを実現する。

<研究の柱③> ルーブリックを活用した言語活動の評価の工夫

- ・ルーブリックを活用した評価基準を設定し、生徒に示し、各基準を意識させることで、生徒が論理的でまとまりがある文章を書くことができるように評価を工夫する。

IV 研究構想図

【国と東京都の目標等】

- ・「簡単な情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成（中学校学習指導要領解説 外国語編【高等学校の追記箇所】）
- ・英語を用いて自分の気持ちや考えを発信し、発表や議論ができる力の育成（東京グローバル人材育成指針）

【生徒の実態】

- ・習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することなどに課題がある（中学校学習指導要領解説 外国語編）
- ・東京都立高等学校入学者選抜学力検査大問2－3(2) 正答率 38.3%(令和3年) 44.7%(令和4年) →技能を統合した言語活動に取り組みせることにより、既習事項の定着を図る指導の充実が必要（令和3・4年度 東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査報告書）

【指導の現状】

- ・「話すこと」及び「書くこと」の言語活動など、複数の領域を統合した言語活動が適切に行われていなかったり、十分でなかったりすることなどの課題がある。

（中学校学習指導要領解説 外国語編、高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編）

- ・「スピーキング」と「ライティング」のパフォーマンステストを両方実施した学校の割合が高等学校で低下

中学校 92.9%（国 90.5%） ⇒ 高等学校 35.0%（国 38.4%）（令和3年度 英語教育実施状況調査）



【目指す生徒像】

既習事項を活用したり、読み手等を意識したりする統合的な言語活動を行うことにより、自分の考えや気持ちを「論理的」に「まとまりのある文章」で書くことのできる生徒

【研究主題】

一人1台端末の活用を通して対話的な学びの機会を設定し「書くこと」の力を育成する指導の工夫

【研究仮説】

目標を明確にし、一人1台端末を活用しながら、対話を通じた言語活動の機会を繰り返し設定し、生徒同士で評価をしながら「書く力」を伸ばす指導すれば、「論理的」に「まとまりのある文章」が書ける生徒を育成できるだろう。



【研究の柱①】

情報収集や情報共有機能を活用しながら、「書く力」を伸ばす統合的な言語活動の工夫

【研究の柱②】

成果物の共有や相互評価を活用した生徒同士の対話的な言語活動の工夫

【研究の柱③】 ルーブリックを活用した言語活動の評価の工夫

V 検証授業

指導事例 1 より

- 1 対象 中学校第 2 学年
- 2 単元名 Unit 3 Plans for the Summer
- 3 単元の目標

- (1) メールから、予定や希望などを読み取ることができる。
- (2) 予定や希望などを伝えるメールを書くことができる。

4 本単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
[知識] be going to, 助動詞 will, 接続詞 if の文構造を理解している。 [技能] be going to, 助動詞 will, 接続詞 if の文構造を用いて書く技能を身に付けている。	メールから情報を読み取り、適切な形式や表現を考えたり、一言付け加えるなどの工夫をしたりして、メールを書く。	メールから情報を読み取り、適切な形式や表現を考えたり、一言付け加えるなどの工夫をしたりして、メールを書こうとしている。

5 一人 1 台端末を活用する際の留意点

- (1) 一人 1 台端末の活用を通して、書く内容についての情報収集及び思考整理を行わせた。
- (2) 思考整理型アプリを通して、生徒同士で対話を重ねながら思考を整理・共有し、地域の観光スポットを紹介する英文を協働的に作成した。
- (3) 成果物を基に生徒同士で対話を繰り返し行う中で、より創造的かつ協働的に英文を書くことができるよう指導した。

6 本時の学習計画（全 9 時間中の第 7 時）

- (1) 本時の目標
 - ・観光案内を聞くことにより、接続詞 if の文構造を理解するとともに、聞いたり、話したり書いたりすることができるようになる。
 - ・自分の住む町のお勧めの場所について、接続詞 if を使い紹介する英文を考え発表する。
- (2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 2分	1 Greetings	・一人 1 台端末を用意する。	
展開① 15分	2 Practice: Listen (P 37) ○ニューヨークのマンハッタンについて観光案内を聞き、記号で答える。 This is a map of New York City.	・ Listening 活動の目的や Vocabulary を理解させる。 ・何がどこにあるのか、興味・	ア（観察）

	<p>This island is Manhattan. There is a big park in the center of Manhattan. Do you remember what it is? There are a lot of theaters around here. You can enjoy musicals. There are some famous museums. 研究の柱①</p> <p>(1) Vocabulary (2) Listening to the text (3) Check of the understanding</p>	<p>関心をもたせる。理解度を確認しながら生徒との Interaction を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Vocabulary の確認をする。 • 理解度を確認しながら段階的に支援する。 	
<p>展開② 15分</p>	<p>○3 Practice</p> <p>聞き取った内容を基に、地域の町づくりを英語で表現し、理解を深める。 研究の柱①②</p> <p>発問：世界中から訪れる旅行者に地域の観光スポットを紹介しよう。</p> <p>(1)思考整理型アプリを開き、グループで紹介できる地域の観光スポットのアイデアを出し、If ~ (it is sunny / rainy, you go shopping) , you can ~につづくよう英文を考える。</p> <p>(2)紹介できる地域の観光スポットをグループごとに発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • プレゼンテーションソフトのスライドを利用して視覚的に導入した Listening 活動も参考にしてアイデアを出し、作文を書かせる。 • Facilitator としての教員の役割を意識し、生徒を支援する上で資料の選択と提示内容に留意する。 	イ（観察）
<p>まとめ 3分</p>	<p>4 Consolidation</p> <p>○一人1台端末を使うことにより、できたことや次にやってみたいことなどを振り返る。</p>		

7 指導事例1における成果と課題

(1) 研究の柱①及び②における成果（◎）と課題（▲）

- ◎ニューヨークのマンハッタンは、多くの生徒にとってなじみのない地域ではあるが、プレゼンテーションソフトのスライドを利用して視覚的に導入する等効果的に活用した。その結果、生徒がイメージをもち活動することが可能になり、基本文についての理解を深めさせることができた。基本文を用いて、地域の観光スポットについて発信できるまでの段階に達することで、書くことの表現の多様性につながった。
- ◎思考整理型アプリを使用し、生徒が主体的に調べ表現できる学習環境を整え促すことで、他のグループとの対話的な学びに結びついた。
- ◎生徒が、紹介できる地域の観光スポットについて主体的に調べ、新たなスポットを紹介することができた。書いた内容を全体で共有することで、生徒は新たな表現に触れ、修

正する等対話的な学びにつながっていた。

▲一人1台端末を使用しているために、設定した提出期限を過ぎても生徒が作文を修正することが可能である。しかし、発表の際には、でき上がった英文や原稿を書き換えられないことがないように、教員の側で制限を加えるべき場面があった。

(2) 研究の柱③における成果 (◎) と課題 (▲)

▲本検証授業ではグループの発表としたが、生徒個人の成果を細かく確認することはできなかった。そのため、より精緻な評価基準を設定する必要がある。一人1台端末の活用を通して対話的な学びの機会を繰り返し設定し、思考力、判断力、表現力等の育成と主体的に学びに向かう態度の育成を強化させていきたいと考えている。

指導事例2より

1 対象 中学校第2学年

2 単元名 Unit 5 Universal Design

3 単元の目標

- (1) 疑問詞+to や主語+be 動詞+形容詞+that を含む文の形・意味・用法を理解する。
- (2) 使い方、確信や喜びの気持ちなどを伝え合う技能を身に付ける。
- (3) 身の回りのユニバーサルデザインの特徴や有用性についての事実、だれもが暮らしやすい社会をつくるためにどういうことをしていきたいかについて自分の考えを整理し、内容的にまとまりのある文章を書く。
- (4) 身の回りのユニバーサルデザインの特徴や有用性についての事実、だれもが暮らしやすい社会をつくるためにどういうことをしていきたいかについて自分の考えを整理し、内容的にまとまりのある文章を書こうとしている。

4 本単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
[知識] 疑問詞+to や主語+be 動詞+形容詞+that を含む文の形・意味・用法を理解している。 [技能] 使い方、確信や喜びの気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	①身の回りのユニバーサルデザインの特徴や有用性、それについての事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書いている。 ②だれもが暮らしやすい社会をつくるためにどういうことをしていきたいかについてまとまりのある文章を書いている。	①身の回りのユニバーサルデザインの特徴や有用性、それについての自分の考えや気持ちなどを整理し、内容的にまとまりのある文章を書こうとしている。 ②だれもが暮らしやすい社会をつくるためにどういうことをしていきたいかについてまとまりのある文章を書こうとしている。

5 一人1台端末を活用する際の留意点

- (1) 一人1台端末を活用し、書く内容についての情報収集を行わせた。
- (2) 授業支援アプリを活用して生徒同士で成果物を共有し、クラスメートの書いた英文へ対して英語でコメントさせた。
- (3) 文と文の順序や相互の関連に注意を払わせるとともに、「導入—本論—結論」といった文章構成の特徴を意識させながら、次のモデル文のような全体として一貫性のある文章を書くように指導した。また、ループリックを事前に提示することにより、目標とする英文や

内容の構成等活動への見通しをもたせた。

<身の回りのユニバーサルデザインについての紹介文のモデル>

I want to introduce one example of universal design.
 Look at this bottle. It is a shampoo bottle. It has bumps, so we don't mistake the shampoo for the conditioner.
 I'm sure universal design is great because the products are useful for everyone.

<「書くこと」における評価規準>

「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」は、以下の条件で評価する。

条件1：「導入、本論、結論」という文の構成を明確にし、相手に分かりやすくなるように工夫している。

条件2：身の回りのユニバーサルデザインの特徴を絵やイラスト等を活用し述べている。

条件3：5文以上で文章を構成している。

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	三つの条件を満たしている。	三つの条件を満たして書こうとしている
b	二つの条件を満たして書いている。	二つの条件を満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

6 本時の学習計画（全6時間中の第4時）

(1) 本時の目標

- ・身の回りのユニバーサルデザインについて紹介文を書く。

(2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 3分	○Greetings ○2 minute chat		
展開 40分	○Review ・教科書で紹介されていたユニバーサルデザインについてペアで情報を共有する。その後全体で話し合ったことを共有する。 ○本時の目標を確認する “身の回りのユニバーサルデザインについて紹介しよう” ○書く活動 ・モデル文を読む。 ・ループリックを確認し、文章を書く際に留意すべき点を把握する。研究の柱③ ・端末を活用し、身の回りのユ	・ペットボトル、手すり、スロープの写真を共有し、それらの特徴や有用性を英語による質問に対して英語で回答する。 ・まとまりのある文を書くために使用する表現について着目させる。 ・書く内容の情報収集だけ	

	<p>ユニバーサルデザインを調べる。研究の柱①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介文を書き、授業支援アプリに投稿する。 ・ 紹介文を授業支援アプリで共有し、有用であると思ったものを選びコメントを記入する。研究の柱①② 	<p>でなく、ユニバーサルデザインの工夫が分かるイラスト等を探させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ有用であると思ったのか理由を含めて英語でコメントさせる。 ・ コメントを紹介する。 	<p>イー① (紹介文の分析)</p>
<p>まとめ 7分</p>	<p>○ 目標の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を振り返る。 ・ 自分の文章を、ルーズブリックを基にして自己評価し、振り返りを授業支援アプリに記入する。研究の柱③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を達成できたかどうかを確認する。 	<p>ウー① (紹介文、自己評価、振り返り分析)</p>

7 指導事例2における成果と課題

(1) 研究の柱①及び②における成果(◎)と課題(▲)

◎一人1台端末を使用させることで、書きたい内容についての情報収集だけでなく、単語や表現の検索にも活用させることができた。その際、生徒によっては知りたい内容によって紙の辞書とオンライン辞書(一人1台端末)を使い分けている姿も見られた。

◎教員が文書作成ソフトで英文をつくる際に留意すべきインデントなどの文章の体裁についても指導を行うことで、英文表記についても言及することができた。

◎授業支援アプリを活用し、成果物を瞬時に共有させることにより、お互いの成果物を読む時間を設定できただけでなく、他の生徒の成果物を読んでコメントを英語で書くという「読む」と「書く」の統合的な言語活動を実施することができた。

▲教員が生徒に紹介文に関連する絵や写真を授業支援アプリに投稿させたが、データの容量が大きすぎる等の理由で保存することができなかった。また、生徒に文章のインデントを整えさせてから英文を投稿させたにも関わらず、アプリ上では反映されていなかった。授業支援アプリを使用する際の様々な状況を想定した事前確認が不足していた。

(2) 研究の柱③における成果(◎)と課題(▲)

◎事前に生徒にルーズブリックを配布し、まとまりのある文を書くための留意点を意識させることで、ほとんどの生徒が全体として「導入—本論—結論」の形を伴った一貫性のある文章を書くことができた。また、主語+be動詞+形容詞+that節やbecauseなどの既習事項を活用し、自分の考えを書くことができていた。

▲文章構成に留意した文を書けている場合であっても、読み手にとっては理解しにくい英文になってしまっているものも見られた。これは、日本語の文構造に引きずられてしまっていることや、日本語の意味のみに着目して作成していることが原因だと考えられ

る。読み手を意識しながら、自分が伝えたいことをいかに分かりやすい英文にまとめるかについては、今後も継続して指導を行っていく必要がある。

指導事例3より

1 対象 高等学校第2学年

2 単元名 Lesson 9 Justice with Michael Sandel: What's the Right Thing to Do?

3 単元の目標

マイケル・サンデルの白熱教室における対話文を理解し、倫理・道徳的なジレンマについての思考を深めながら、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落により詳しく書いて伝えることができる。

4 本単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
[知識] 倒置、不定詞、省略を理解している。 [技能] 倒置、不定詞、省略を用いた文を用い、社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている。	マイケル・サンデルの白熱教室における対話文を理解し、倫理・道徳的なジレンマについての思考を深めながら、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えている。	マイケル・サンデルの白熱教室における対話文を理解し、倫理・道徳的なジレンマについての思考を深めながら、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。

5 一人1台端末を活用する際の留意点

- (1) 題材についての背景知識を活性化するため、自由に意見交換をしたり、導入時に写真や映像を見せてイメージを膨らませたりすることで生徒がブレインストーミングを行う。
- (2) ペアワークやグループワーク等を用いて、生徒が互いに教え合う場を設定しているが、発問をした際はまずは個人で考えさせ、次にペアやグループでその考えを共有することで個人の考えが深められるようにしている。
- (3) 一人1台端末を効果的に用いて、学級で成果物を共有し、対話的な学びにつなげる。

＜「書くこと」における評価の条件＞

「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」は、以下の基準で評価する。

条件1：自分の立場を明確にして、その理由を二つ以上挙げている。
条件2：さまざまな考え方をあることを認識した上で、自分の考えを述べている。
条件3：論理の構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で書いて伝えている。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙や表現の選択に優れ、理解しやすい英文を書いている。	「三つの条件」をそれぞれ十分に満たした上で、効果的に自分の意見を書いている。	「三つの条件」をそれぞれ十分に満たした上で、効果的に自分の意見を書こうとしている。
b	誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文を書いている。	「三つの条件」をそれぞれ一定程度満たして書いている。	「三つの条件」をそれぞれ一定程度満たして書こうとしている。

c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。
---	--------------	--------------	--------------

6 本時の学習計画（全6時間中の第3時）

(1) 本時の目標

- ・ Part 2 の論題について、自分の意見を整理する。

(2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ Greetings ○ Today's Goal <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を学級で共有する。 ○ Concept Map <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を授業支援アプリに投稿する。 ・一人1台端末を活用して、書いた内容を、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との対話を重視し、質問しやすい授業の雰囲気づくりを心がける。 主体的で（①子供たちが学ぶことに興味・関心をもつことができる②見通しをもちながら粘り強く学ぶことができ、学習活動を振り返って次につなげることができる）対話的な学びを通して（①学びの上で生徒同士の協働がある②先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めることができる）、既習事項の理解を深める。 ・英語で発信することに自信がない生徒を支援するために、机間指導を行う。 	
展開① 20分	<ul style="list-style-type: none"> ○ Review <ul style="list-style-type: none"> ・ Part 1・2 の復習をする。 ・本文内容を再度確認し、学んだ内容を共有する。 ○ Summary <ul style="list-style-type: none"> ・ Part 1・2 の要約をする。 ・端末を活用し、Part2 の問題の背景について調べる。 ○ Writing <ul style="list-style-type: none"> ・ Part 2 のテーマについて、自分の意見を書く。 ・ “Is it right for the school to accept the donation and to permit the boy to enter? ” What is your opinion of the issues discussed in Part2? ○ 中間評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア・ワークやグループ・ワーク等、双方向的なやり取りを通じて、積極的に授業に参加させる。 ・生徒の興味・関心を高めるよう適宜スライドを用いる。 ・ペア・ワークを中心にして、ワークシート作業を進める。 ・コミュニケーション活動及び協働学習の場を設定する。 ・アウトプットの機会を設定する。 ・途中で適宜生徒の理解度を確認しながら Writing の書き方の説明をする。 ・内容を十分に理解する。 ・英語で発信することに自信がない生徒をサポートするため 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・Writing の注意点を確認する。 ・ループリックに基づいて書かれている生徒の作文を共有する(発表)。 ・一人1台端末を活用して、書いた内容を、全体で共有する。 <p>○ Mutual Correction</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで、書いた英作文を交換し、意見交換する。 ・自分の意見を授業支援アプリに投稿する。 ・思考力・判断力・表現力の育成につながる活動に取り組む。 <p>Part2 のそれぞれの考え方について意見を共有し、コメントする。研究の柱②</p>	に、机間指導を行う。	
展開② 12分	<p>○ 1st Presentation</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで自分の考えを発表して、発表者の考えについて、コメントする。意見をメモする。 ・グループで意見の共有をする。 <p>○ 2nd Presentation</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級で自分の考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が説明する場面、生徒が発言する場面、課題に取り組む場面を適切に設けることにより、生徒の集中力の維持を図る。 ・最初はワークシートに書き、その後、口頭で確認し合う。 ・英語で発信することに自信がない生徒をサポートするために、机間指導を行う。 	イ(言語活動への取組状況, ワークシート)
まとめ 8分	<p>○ Consolidation</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 ・自分の文章を、ループリックを基にして自己評価する。 <p>研究の柱③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の内容と課題を伝える。次回の学習事項を案内する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のポイントについて触れ生徒の理解の定着を図る。 ・書く→話す→書く活動を通し生徒の変容をみる。 ・本時の成果を共有し、次時の見通しをもたせ、意欲につなげる。 ・笑顔で達成感をもって終わる。 	

7 指導事例3における成果と課題

(1) 研究の柱①及び②における成果(◎)と課題(▲)

- ◎一人1台端末を使用することで、生徒が調べたいタイミングで、瞬時に語彙や表現を調べることができた。また、テーマについても、検索することができた。
- ◎日本語と英語の両言語で、迅速に調べることができた。
- ◎情報共有という面で、授業支援アプリを活用し、生徒が書いた成果物について、学級全体で瞬時に共有することができた。生徒が書いた成果物について、様々な視点から改善点などを共有できた。生徒が、幅広い視点に触れるのに有益であった。

(2) 研究の柱③における成果 (◎) と課題 (▲)

◎あらかじめ生徒にルーブリックを配布し、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えることができるようになるための留意点を意識させることで、ほぼ全員が「導入→本論①→本論②→結論」の構成をした一貫性のある文章を作成できた。また、クラスメートの良い考えや視点を適宜取り入れられるようになった。自分が書く文章をより客観的に捉えることができるようになった。

▲形式に重点を置いた結果、内容を深めることができなくなった。

指導事例 4 より

1 対象 高等学校第3学年

2 単元名 Unit10 Big Events

3 単元の目標

- (1) graduate from ～等の表現、want to ～と be going to ～の違い等を理解する。
- (2) 学んだ語彙・文法を適切に使用し、自分の将来の計画について書くことができる。
- (3) 既習事項を活用して、自分の将来の計画について読み手に分かるように論理性に注意しながら、文を書いて伝える。
- (4) 既習事項を活用して、自分の将来の計画について読み手に分かるように論理性に注意しながら、文を書こうとしている。

4 本単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識] graduate from ～等の表現、want to ～と be going to ～の違い等を理解している。</p> <p>[技能] 学んだ語彙・文法を適切に使用し、自分の将来の計画について書く技能を身に付けている。</p>	<p>①聞いた会話や、読んだ文章を参考に、学んだ語彙・文法等を活用して、自分の将来の計画について読み手に分かるように文を書いて伝えている。</p> <p>②自分がギャップイヤーで行ってみたい国について読み手に分かるように論理性に注意しながら5文程度の文を書いて伝えている。</p>	<p>①聞いた会話や、読んだ文章を参考に、学んだ語彙・文法等を活用して、自分の将来の計画について読み手に分かるように文を書いて伝えようとしている。</p> <p>②自分がギャップイヤーで海外に行く場合行ってみたい国について読み手に分かるように論理性に注意しながら5文程度の文を書こうとしている。</p>

5 一人1台端末を活用する際の留意点

- (1) 一人1台端末による情報収集とオンライン辞書利用を実施した。
- (2) 表計算シートを情報共有のプラットフォームとして使用し、各グループの進捗を可視化し、複数のモデル文や他の生徒の作文確認、参照を容易にした。
- (3) 英作文では導入一本論結論の構成を意識させ、6割の生徒がモデル文と同等の文が書けることを目標に指導。また、生徒にルーブリックを事前提示し目標を可視化した。

<モデル文> Q. How would you spend your gap year?

Before I start college, I am going to take a gap year. I want to spend my gap year in Canada. The biggest reason is that I could see the beautiful orange leaves during autumn. Another reason is that I could eat famous Canadian foods like poutine. That is why I want to spend my gap year in Canada.

<「書くこと」における評価の条件>

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	自分がギャップイヤーで行ってみたい国について読み手に分かるように論理性に注意しながら5文程度（4文以上）の文を書いて伝えている。	自分がギャップイヤーで行ってみたい国について読み手に分かるように論理性に注意しながら5文程度（4文以上）の文を書こうとしている。
b	自分がギャップイヤーで行ってみたい国について読み手に分かるように論理性に注意しながら3文を書いて伝えている。	自分がギャップイヤーで行ってみたい国について読み手に分かるように論理性に注意しながら3文を書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

6 本時の学習計画（全6時間中の第5時）

(1) 本時の目標

- ・自分がギャップイヤーで行ってみたい国について読み手に分かるように、論理性に注意しながら5文程度の文で書いて伝える。

(2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶、本時の学習内容と目標の確認 ○タブレットの起動とオンラインソフトへのサインイン、ウェブサイトで操作画面を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始前に端末を配布。 ・学習内容と目標は開始前に板書しておく。 ・前回回収したクエスチョンシートを返却しておく。 	
展開 42分	<ul style="list-style-type: none"> ○前回のグループワークの発表と投票を行う。 ○スモールトーク <ul style="list-style-type: none"> ・JETとJTEによるギャップイヤーについての会話を聞く。 ○プリント（Unit10 Big events） 6 CULTURE TALK! Gap Year Activities Cの発展活動（クエスチョンシート#4 Q. How would you spend your gap year?） <ul style="list-style-type: none"> ・前回のギャップイヤーの候補国リストを参照し、行きたい国ややりたいこと、その理由等を考える。 ・考えについてメモをする。 ・単語などを調べる。（5分） ・指示したペア（前回とは違うペア）でQA活動を行う。一人が質問、もう一人が回答。（2分） ・メモを取る。 ・質問と回答の役割を交代してQA活動。（2分） ・メモを取る。 ・当てられた数人は簡潔に自分の答えを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意欲を高めるため、各発表後に拍手する。 ・スモールトークの中で自然にモデル文を示す。 ・シート#4を配布する。 ・投票した国から変更可であることを伝える。 ・指示を明確にし、生徒に何をするかを確実に理解させる。奇数人数の場合は外国人講師とペアを組ませる。 ・質問時はリストを参照しながら行うことが可能であることをだと伝える。 ・発表した生徒に対して好意的 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・それ以外の生徒は傾聴する。 ・4パターンのモデル文を確認する。研究の柱① ・自分が話した内容を取捨選択し、表計算シートの自分の該当箇所に Your Answer にすべき5文程度の内容を入力する。(8分) 研究の柱② ・入力した内容をペアで発表し、日本語で感想を伝え合う。 研究の柱①② ・教員のコメントやクラスメートの作文を参考にしながら、自分の作文を修正し、完成させる。(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・なりアクションを示す。 ・表計算シートで示す。 ・文章の構成に注目させる。 ・今回は構成に注意し、自分なりに工夫して前回の作文を超える意識を持つよう指導する。間違っていて構わないことを伝える。 ・生徒の入力画面を投影しておく。 ・好事例を取り上げ、全員で共有する。 ・文章入力に不慣れな生徒は紙のクエスチョンシートの Your Answer に修正版を書き、提出する。 	ウー② (観察) イー② (記述内容) ウー② (記述内容)
まとめ 5分	○振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りフォーム形式のアンケートに入力する。 ・電源を切り端末を返却する。 		観察

7 指導事例4における成果と課題

(1) 研究の柱①及び②における成果(◎)と課題(▲)

◎普段の授業では紙で行っているクエスチョンシートを用いた言語活動(スピーキング活動を経たライティング活動)を今回は一人1台端末を活用して行った。端末を活用することで、情報収集をスムーズに行うことができた。

◎授業支援アプリ中で表計算シートを活用することにより、即時で情報共有や成果物の共有が行えることによる学びは、ワークシートに書き込む活動等では得られない良い点と言える。生徒対象の事後アンケートで、この点が「英作文の質の向上につながった」と回答する生徒が複数おり、1学期末成績で5段階中3以下の生徒の7割が目標を達成できていた。

▲生徒のデジタルリテラシーには差異があり、教科の学習に影響を与えた。例えば、グループワークの際、特に様式を指定せず自由に表計算シートに入力をさせたところ、他のグループの入力箇所に追加したり、本筋と学習とは関係ないところに労力を割いたりする場面が見られた。解決するためには、教科や科目を超えて取り組む必要がある。

(2) 研究の柱③における成果(◎)と課題(▲)

◎ループリックを確認させ、まとまりのある文を書くための留意点を意識させることで、授業前の設定目標である6割を超え、8割の生徒がa評価の作文を書くことができた。

▲ループリックについてはまだ完全な形とは言えないと感じた。妥当性や精度を高めるため、更なる情報収集や研究を継続していく必要がある。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

【成果(1)一人1台端末の活用による「主体的・対話的で深い学び」の促進・深化】

本研究の全4回の指導事例において、生徒の学びに向かう姿勢が変化する瞬間が随所で見受けられた。顕著な例として、指導事例1では、情報収集のツールとして端末を利用して地域の観光スポットについての調べ学習を行った結果、生徒同士でのやり取りが活発化し、大半の生徒が自主的に作文演習に取り組む事ができた。さらには、一部の作業が速い生徒が指定された場所以外に新たなスポットについての紹介文を自主的に作る動きも起こった。一人1台端末の使用により、短時間で地域の情報を作文に生かすことができ、多くの生徒の学

習意欲を底上げすると同時に、生徒たちの英文数を飛躍的に増やすことができた。また、書く活動においては、英語が得意な生徒が自分の課題終了後に学習をやめてしまう状態になるケースも多くある。しかし、本授業においては、困っている生徒と協働して学習するだけでなく、インターネット検索を気軽に行える環境が整ったことにより、自ら課題を設定して取り組むことが可能になり時間を有効活用できた。この事例から、インターネットの使用により自主的かつ協働的に作業に取り組もうとする生徒が増えることが確認できた。一人1台端末を活用することで、生徒が「主体的・対話的で深い学び」に向かう取組がより見られた。

【成果(2) 情報共有の準備時間の短縮による他活動の充実】

今回の研究の中で最も顕著に成果が出たのが「共有速度の向上」である。今までは生徒の成果物を他と共有するには、主な方法として以下①～④の手段が使用されていた。

- ①ペアやグループの中で意見、情報を交換する。
- ②黒板や白板に書き、書いた生徒本人に発表してもらう。
- ③書いたものを回収し、教員が読み上げるなど一部抜粋して紹介する。
- ④書いたものを掲示又は机に置くなどして回覧する。

互いの情報を共有する活動は「対話的な学習」をする上で大変有意義である。これまでも多くの教員がこの類の活動を実践してきているが、「一部しか紹介できない(①②③)」、「例を多数見せるには準備と時間が必要(③④)」などの理由により有効活用できていなかった。しかし、現在では多くの学校で一人1台端末を十分に活用できる環境が整いつつあり、「情報共有の効率化」において大きく進化している。

指導事例4では、表計算ソフトを使用して共同編集し、生徒同士の作文をリアルタイムで共有しながら英作文演習を行った。作文が苦手な生徒は、他の生徒の文を参考にして調整を加えつつ作文を完成させていた。多くの生徒は、共有した内容を応用し、工夫して自分の表現したいことを書こうとする努力をしていた。また、共有がスムーズに行えたために時間的な余裕が発生し、同授業内で感想を伝え合う活動を計画に組み込むことができた。授業者の「成果物を共有しながら作業できるので、他の活動を充実させることができた。」という発言から共有速度が向上したと言える。

【成果(3) 目標の明確化による英作文の質の向上】

「論理的」に「まとまりのある文章」が書ける生徒を育成するために、本研究では英作文演習用のルーブリックを事前に提示し、生徒に目標を意識させ、その効果を検証した。

先に述べた指導事例4(高校)では、英語を苦手と感じている生徒が多く、まとまった英文を書くことに抵抗がある者も少なくなかった。しかし、目標を明確化して作業に取り組ませた結果、他の生徒の英文を参考にしたりインターネット検索ツールを使用したりと必要に応じて端末を活用し、多くの生徒がまとまった英文を書くことができるようになった。指導事例2と3は英語活用能力が高い生徒が多く在籍している環境で行われた。こちらの授業でもルーブリックを事前に示してから演習を行ったことにより、目標を達成するだけでなく、接続詞などを効果的に使った「論理的」に「まとまりのある」質の高い文章を書く生徒が多く見受けられた。

ただルーブリックを用いて目標を提示するだけでなく、端末の利用と組み合わせることにより、通常より高い目標を設定しても、生徒は目標に合わせてツールを上手に使い成果を出

すように努力する傾向がある事が確認できた。

また、高校3年生段階から逆算して評価基準を定めたことにより、中高6年間のゴールを意識した発達の段階に応じた評価と指導を実践できた。中高合同で研究した成果の一つである。

2 研究の課題

【課題(1) ルーブリックの妥当性及び精度】

ルーブリックを提示することで生徒が見通しをもち英文を書くことができたが、内容よりも形式面に重点を置くという状況が見られた。一方で、ルーブリックに基づいていない文章ではあるが、自分の考えや気持ちなどを素直に表現している英文も確認できた。しかし、この場合はルーブリックに基づいていないため評価につながりにくい。書く活動においては内容面、形式面ともに重要である。ルーブリックについては、妥当性や精度を高めるため、引き続き検討する余地があり、更なる情報収集や研究を継続していく必要がある。

【課題(2) 書くことの正確性を高める指導の工夫】

自分の気持ちや考えが読み手に正しく伝わるようにするためには、適切な表現や語彙を使用して書く必要がある。今回の検証授業では「論理的」に「まとまりのある」文章を書く力の育成に重点を置いたため、文章を「正確に」書く力の指導については改めて検討する必要がある。正確性を身に付けさせるためには、日頃の語彙や文法指導に加え、何度も繰り返し英文を書く活動を実施する必要がある。添削ソフトの導入やJETやALTなどと連携して添削するなど英語科で組織的な対応の仕組みを考えていく必要がある。これらを日々の授業で実践していくことにより、正確かつ適切に英文を書ける生徒を育てていきたい。

また、中学段階では正確に英文を書く指導とともに、聞いたり読んだりしたことについて書くといった統合的な言語活動を繰り返し実施するとともに「できた」という成功体験を積みませ、英語への意欲や関心、主体性を喚起していく必要がある。そうすれば、高等学校で取り扱う英語の難易度が高くなったとしても、粘り強く学習に取り組むことができると考える。中高合同で研究を行うことで、中高の連携の大切さを実感した。

【課題(1) 教員の役割】

一人1台端末を授業で利活用することで、いわゆるアクティブ・ラーニングを実現するためには、活動の前に教員がコミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にすることで、生徒は適切な情報を取捨選択できるようになる。成果物共有場面において、生徒同士が互いに学び合える既習・未習の表現を意図的に拾い上げ、気付きや学びを言語化させる手助けをすることが、教員の役割として求められる。教員の役割は気付きや学びを言語化させる手助けをすることにあると考えられる。端末使用のみならず、rewriteや、今日の学びにつながった表現など、生徒が学びを実感するしかけを設定する必要がある。また、4技能を統合的に活用させた取組が求められるが、その活用に偏りがなく、常に教師自身が確認・点検を行いながら改善していく必要がある。

令和4年度 教育研究員名簿

中・高 合同・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立九段中等教育学校	主任教諭	頓 所 美 郷
新宿区立新宿西戸山中学校	主任教諭	飯 渕 好 枝
世田谷区立奥沢中学校	主幹教諭	長 浜 瑞 穂
町田市立町田第一中学校	主任教諭	飯 塚 由 樹 子
西東京市立田無第二中学校	主任教諭	◎本 多 康 二
東京都立墨田川高等学校	主任教諭	松 坂 輝 夫
東京都立富士高等学校	主任教諭	宮 本 司
東京都立西高等学校	主任教諭	横 山 義 治
東京都立府中工業高等学校	主任教諭	清 水 聖 佳

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 石黒 小百合

指導主事 山田 陽子

令和4年度
教育研究員研究報告書
中・高 合同・外国語

令和5年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849